

# 都市再生整備計画(第2回変更)

ちゅうおうちょう  
中央町地区

やまぐちけん うべし  
山口県 宇部市

平成29年12月



## 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【利便性の高い居住環境の形成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道路等の基盤を整備することにより、子育て支援施設等の都市機能との近接性を活かした利便性の高い居住環境を形成するとともに、現在施行中の住宅市街地総合整備事業を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市道西中町小路線(道路)</li> <li>市道(歩行者専用道路)(道路)</li> <li>ストリートファニチャー(彫刻等)(高質空間形成施設)</li> <li>住宅市街地総合整備事業(関連事業)</li> <li>緑地・ポケットパーク整備(関連事業)</li> <li>歩行者回遊軸の整備(関連事業)</li> <li>中央町地区まちづくり構想策定(関連事業)</li> </ul>
<p>【都市機能の誘導による賑わいの創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>近隣住民の日常生活を支える身近な子育て支援施設等の都市機能を整備することにより、子育て世代をはじめとした居住を推進するとともに、地域住民のまちなかでの交流(文化活動や購買活動等)を促進し、賑わいを創出する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもプラザ(高次都市施設)</li> <li>市道西中町小路線(道路)</li> <li>市道(歩行者専用道路)(道路)</li> <li>住宅市街地総合整備事業(関連事業)</li> <li>若者子育て世帯家賃支援事業(関連事業)</li> <li>中央町三丁目地区建物リノベーション事業(関連事業)</li> </ul>
<p>【交流の場の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>インキュベーション施設等の都市機能を誘導し、交流広場を整備することにより、地域住民の交流および市民活動を促進し、賑わいを創出する。</li> <li>シンボルロード(市道常盤通り宇都新川駅線)において、花回廊として花壇と照明灯を整備するとともに、オープンカフェを行うことにより、人々が都市景観を楽しみながら散策し、交流してもらえるような魅力ある空間形成を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>若者未来センター(高次都市施設)</li> <li>交流広場のリニューアル(高質空間形成施設)</li> <li>花壇整備(高質空間形成施設)</li> <li>照明灯整備(高質空間形成施設)</li> <li>オープンカフェ社会実験(提案事業)</li> </ul>
<p>その他</p> <p>宇都の彫刻は1958年(昭和33年)国鉄宇都新川駅前広場に置かれた「ゆあみする女」が契機となり、まちに彫刻を置こうとする「宇都を彫刻で飾る運動」が市民運動として広がった歴史がある。ときわ公園の彫刻野外展示場では、1961年(昭和36年)以来、大規模な野外彫刻の公募展「UBEビエンナーレ(現代日本彫刻展)」を2年に一度開催している。現在、歴代の入賞作品などが、市街地や公園などに設置されている。そういった中で、中心市街地への彫刻の設置を推進しており、彫刻の設置により、一層、親しみの持てる環境づくりが求められている。</p>	



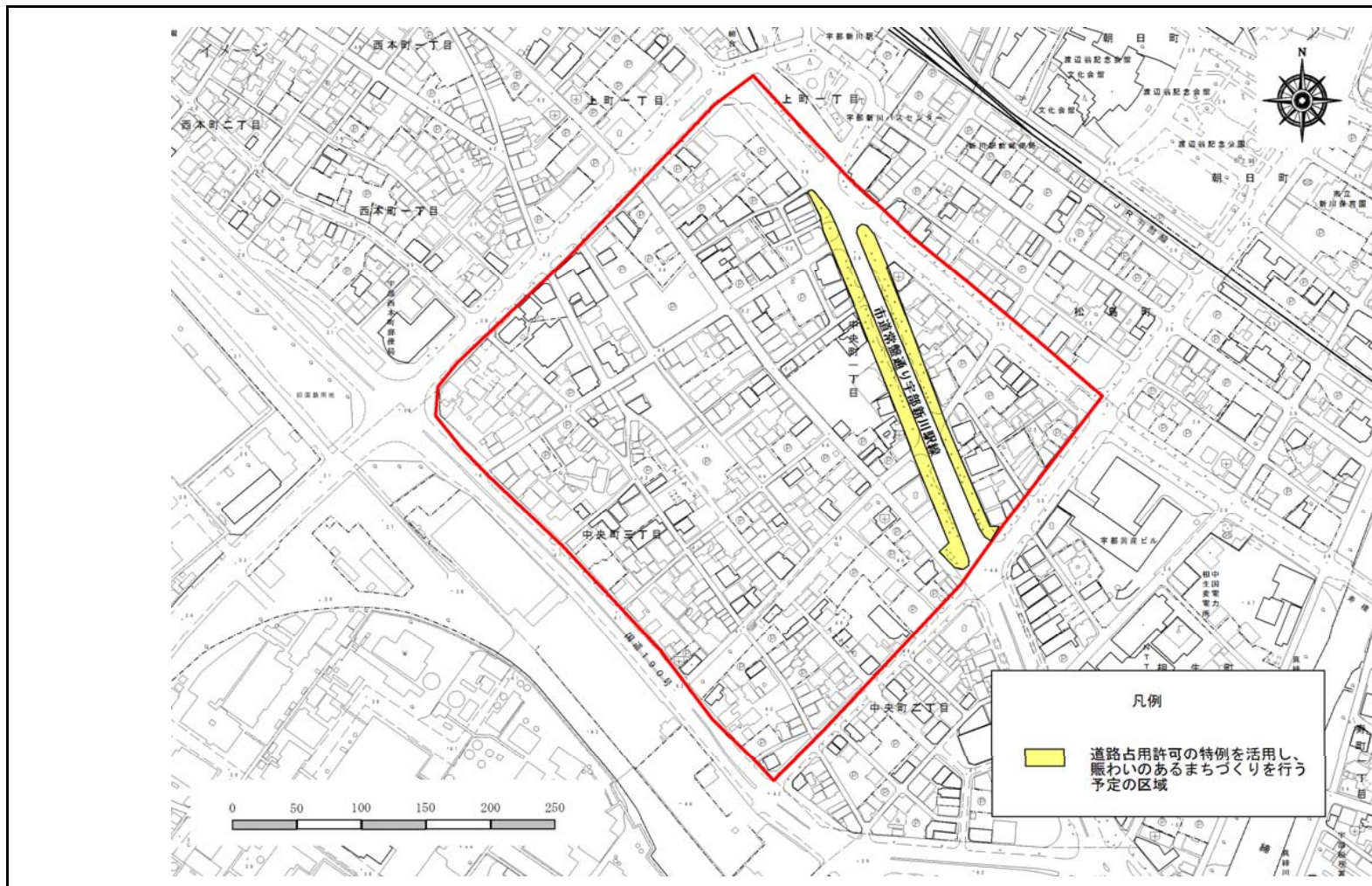




# 制度別詳細1-1(道路占用に関する事項)

## 制度別詳細【道路占用許可基準の特例】

制度を活用して整備・設置する施設等の配置を示す地図

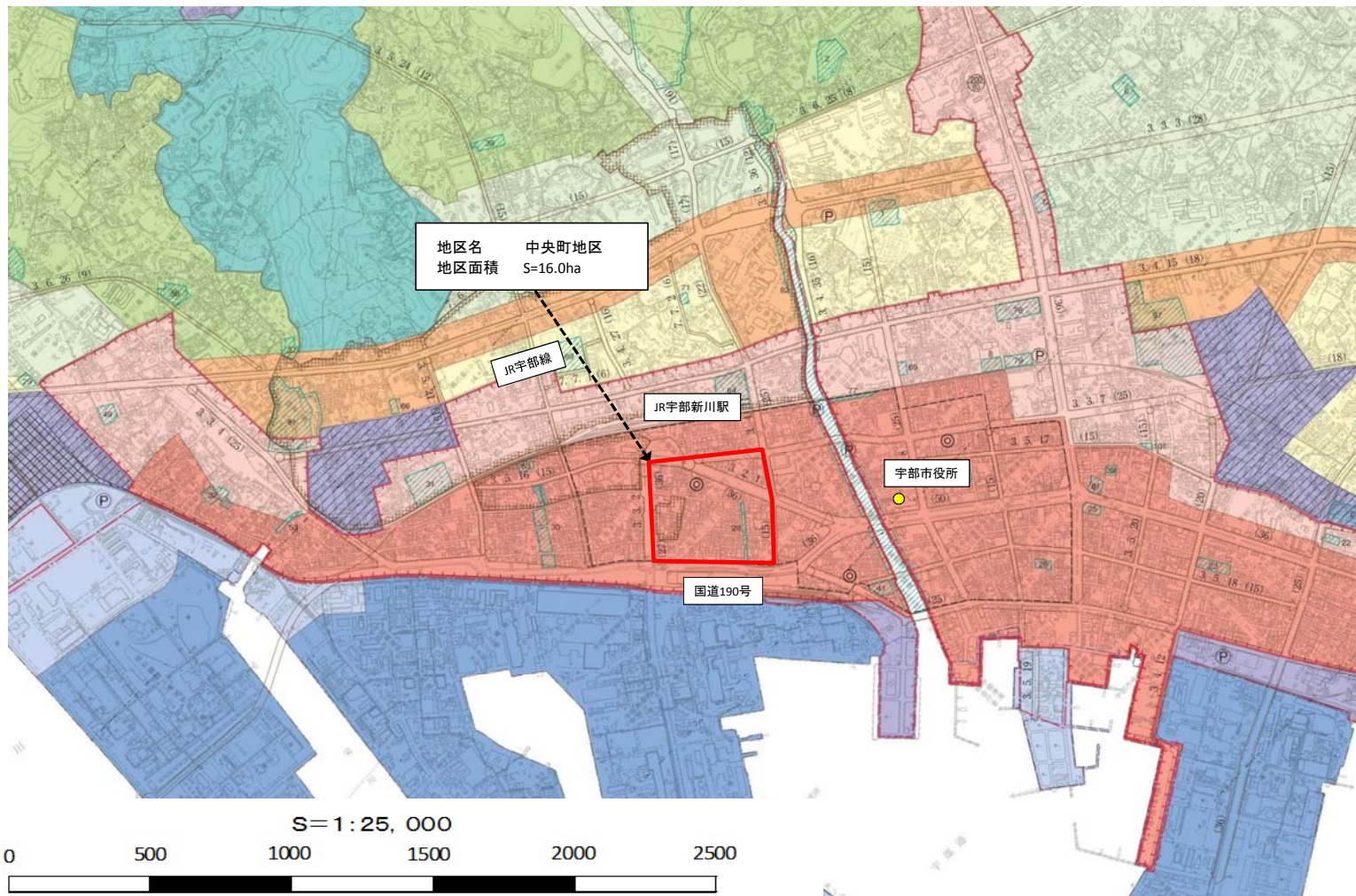




都市再生整備計画の区域

中央町地区(山口県宇部市)	面積	16 ha	区域	宇部市中央町三丁目の全部と中央町一丁目、中央町二丁目の一部
---------------	----	-------	----	-------------------------------

※ 計画区域が分かるような図面を添付すること。





## 中央町地区(山口県宇部市) 整備方針概要図

目標	・中央町地区の定住人口 ・子どもプラザの年間利用者数 ・中央町地区の交流人口	代表的な指標	中央町地区の定住人口 (人)	795 (27年度)	→	860 (32年度)
			子どもプラザの年間利用者数 (人)	- (27年度)	→	8,400 (32年度)
			中央町地区の交流人口 (人)	1,882 (27年度)	→	2,250 (32年度)

